ひととひと まちとまちをつなぐ芸備線
～芸備線再構築協議会で取り組む実証事業～

地域交通課芸備線対策係　☎0824-73-1171

1月27日、第８回芸備線再構築協議会幹事会が岡山市で開催されました。
今回は、現在進められている実証事業の進捗や、事業から得られたデータの分析の結果報告のほか、来年度に実施するバスの実証事業の運行ルート案などについて協議が行われました。

主な報告内容

調査結果

- 乗車人数の調査や利用者アンケートから、土曜・休日の日中増便列車の利用傾向としては、乗車自体が目的である利用者が多い。
- 9月以降は観光や宿泊をする乗客が増えている。消費額の低さや、冬季の利用減少は課題である。
- これまでの芸備線の実証事業（増便・二次交通）を恒常化した場合の初期投資は約9・8億円で、運営費約3900万円～4300万円が追加的に必要となることが試算された。

令和8年度　実証事業

- 次年度のバスの実証事業および調査事業は、平日に行う芸備線沿線の日常利用向けのバス運行を予定。休日には観光需要向けのバス運行を鉄道の休日増便と同等の区間・時間帯で実施。
- 運行経路案として、沿線幹線道路を主軸に駅や学校、病院、商業施設など主要施設への乗り入れも検討。
- 運行区間は新見駅から備後庄原駅までの複数区間を想定。
- これまでの議論や事業をシームレスに着手するため、受託事業者は引き続きJTB広島支店と野村総合研究所との契約を想定。

今後の方針

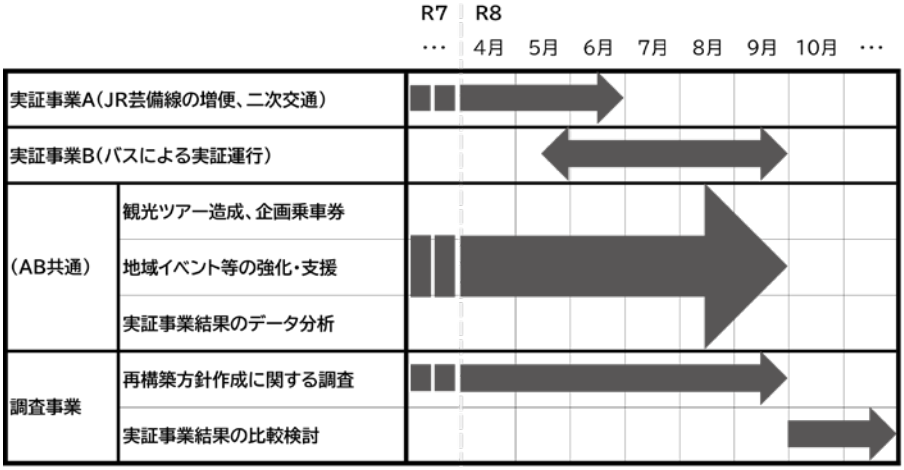
市は今後、実証事業として運行するバスの具体的な運行経路やダイヤを検討・調整していくとともに、4月以降も実施される芸備線を利用した実証事業について、地元関係団体などと連携し、具体化を図っていきます。

市の意見

- 鉄道による通常運行が行われている中でのバスによる実証ということもあり、利用者を実証事業に誘導しながら比較検討に有効な利用者数や意見を集めていくということには、工夫が必要で、非常に難しさがあるように感じている。
- 実証事業の内容検討にあたっては、鉄道とは異なるバスの特性を生かした実証運行となるよう、事務局の主導の下、進めていただきたい。

▲実証事業「熊本隊長とめぐる笑って学べる芸備線の旅」でのひととき（列車内から撮影）

今後の取り組み（予定）



実証事業の最新情報は、市ホームページをご覧ください

調査結果・資料は、中国運輸局ホームページをご覧ください